

教育CSRフォーラム「どうする？キャリア教育～産学連携のすゝめ～」

日 時：平成30年11月16日（金）13:20～16:30

場 所：千葉県総合教育センター

対 象：県内企業、県内大学、県内公立学校のキャリア教育担当者、等

参加者：43名（内訳：企業12名、学校22名、行政9名）

①活動内容

ア 講話

テーマ：「どうする？キャリア教育
～産学連携のすゝめ～」

講師：NPO法人企業教育研究会
経営企画部長 谷山 大三元 氏



イ 事例発表

東京ガス株式会社 千葉支社
（千葉県夢チャレンジ体験スクール協力企業）
支社長 西形 進也 氏



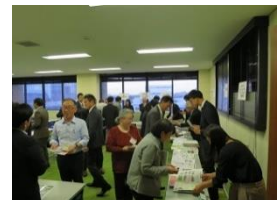
ウ グループワーク

参加者が7～8名の小グループに分かれて、キャリア教育に関する現状や今後の在り方について話し合いをした。



エ 情報交換

参加者が、お互いに名刺交換や資料配布をしながら、知り合う場となった。今後の連携のきっかけの場となった。



②アンケート結果（抜粋）

ア 選択式

① 講演の内容は参考になりましたか。

- ・大変そう思う 24 / 40 (60.0%)
- ・ややそう思う 16 / 40 (40.0%)
- ・あまりそう思わない 0 / 40 (0.0%)
- ・全くそう思わない 0 / 40 (0.0%)

} 肯定的な回答
100% (昨年度は97.1%)

② 事例発表の内容は参考になりましたか。

- ・大変そう思う 20 / 39 (51.3%)
- ・ややそう思う 19 / 39 (48.7%)
- ・あまりそう思わない 0 / 39 (0.0%)
- ・全くそう思わない 0 / 39 (0.0%)

} 肯定的な回答
100% (昨年度は94.1%)

③	グループワークでは有意義な情報を得ることができましたか。		
	・大変そう思う	22 / 40 (55.0%)	} 肯定的な回答 97.5% (昨年度は91.2%)
	・ややそう思う	17 / 40 (42.5%)	
	・あまりそう思わない	1 / 40 (2.5%)	
	・全くそう思わない	0 / 40 (0.0%)	
④	情報交換では有意義な情報交換(名刺交換)ができましたか。		
	・大変そう思う	21 / 40 (52.5%)	} 肯定的な回答 100% (昨年度は85.3%)
	・ややそう思う	19 / 40 (47.5%)	
	・あまりそう思わない	0 / 40 (0.0%)	
	・全くそう思わない	0 / 40 (0.0%)	

イ 記述式

○感想・意見

[企業]

- ・産学の情報交換の場は貴重だと思います。今後も継続して実施してください。このくらいの規模感がちょうどよいと思います。
- ・たくさん話を聞いて、動き方の参考になりました。
- ・有意義な時間で、ぜひ次回も参加させていただきたいと強く思いました。

[学校]

- ・企業の方とこういった形で話す機会があまりないので、率直な意見を聞くことができてよかった。
- ・いろいろな立場の方とキャリア教育についてお話することができて、とても有意義な時間でした。直接企業の方から事例も聞いたので、今後の授業づくりに生かしていこうと思います。
- ・いつも楽しみにしており、毎年参加しています。事例発表が大変興味深く、多くの事例を聞きたいと思いました。また、今回のグループワークはお互いの状況を知ることができ、大変満足しております。来年も楽しみにしております。

[行政]

- ・熱心な企業様が多いので、うまく学校現場が取り入れていけるようになると、子どもたちの学びの幅や興味・関心が高まり、「生きる力」を身に付けて社会へ飛び立てると思います。
- ・中学校の参加が少なく残念でした。参加者の一人として、今後の広報の工夫なども考えたいと思います。
- ・公的機関と学校(小・中)のつながりが必要だと思っている。企業側と学校側、それぞれのニーズというがあるので、それをすり合わせつつ、効果的に職業体験や見学を設けられるようにマッチングできるシステムを作っていくことが必要なのではないかと。

○要望等

- ・グループワークは学校側の方が多く、企業が少ない感じがした。
- ・情報交換の時間をもう少し長く確保してほしい。他の学校の様子も知りたい。学校については事前にアンケートなどを行うのはどうか？
- ・どんな企業がどんなことができるか、一覧などで情報が欲しい。
- ・学校の悩みや課題、ニーズをもっと知りたい。

→企業側の参加を促す周知方法や内容と時間について次年度の検討事項としたい。

ウ 今年度の改善策についての成果と課題

①周知の仕方の工夫（テーマを親しみやすく、チラシの工夫、Twitterの活用）

- 参加者数は、微増。
- 参加することでどんなメリットがあるのかを前面に出すことで、企画する際に内容を焦点化することができた。
- Twitterを活用して、事前に内容やセールスポイントを8回発信することができた。事後にもフォーラムの様子や参加者の声等を発信することができるので活用したい。
- ▲もう少し伸ばしたい参加者は、「企業」「小学校」「中学校」「高等学校」の参加者である。関係各所への周知は文書をもって行っているが、電話や直接会ってのお願いも必要かと考える。
- ▲「企業と学校をつなぐ」という趣旨からいくと、職種のバランスや人数を考慮しなければならない。周知方法の工夫が必要である。

②グループワークの活用（情報交換中心に行う）

- グループワークの満足度、94.1%→97.5%。じっくりとお互いの話を聞くことができた。

③場の工夫（情報交換時に動きやすいように会場設営を工夫）

- 情報交換の満足度、85.3%→100%。動きやすいことで一か所にとどまることなく多くの方と交流することができていた。

④フォーラムの連続性と実効性を生む工夫（フォーラムの成果を継続して周知）

- 初の試みとして、報告書の様式を作成し、参加者に「フォーラムで終わりではなく、『周知した』とか『取り組んだ』などを引き続き教えてほしい」と呼びかけた。参加者から寄せられた情報については、当課から他の参加者等へ向けて、引き続き情報提供していくことを約束した。情報提供として、直後に1件が感想とともに寄せられ、早速Twitterとメールで周知をした。これからも引き続き、産学連携によるキャリア教育推進の情報提供を行っていく。